

第8回野菜需給・価格情報委員会における秋冬野菜の需給・価格見通しについての意見概要

1 日時

平成22年11月4日（木）14:00～16:00

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 北館6階 大会議室

3 概要

(1) 夏秋野菜の需給・価格の状況（資料1-1）

今年は非常に猛暑で、入荷量が減ったというのが特徴。キャベツの入荷量等をみると、一時期は昨年より安くなった時期もあるが期間トータルで見れば高い。

ほかの5品目についても生育の遅れで入荷量が減少した。特に9月下旬～10月上旬にかけてみれば、価格は非常に高い水準で推移。

(2) 野菜価格高騰への対応について（資料1-2）

農林水産省の「野菜出荷安定対策本部」の第1回会合が10月25日に開催された。この場で農林水産省から機構に対し、消費者団体等関係者からの意見聴取の要請があり、10月19日に野菜需給協議会幹事会を開催した。

この場では、

- ・「原因と現状の見通し」のセットで状況を伝えてもらうことで安心感を持っていける。
- ・前倒し出荷とか規格外の出荷というのは一時的な効果で数量にも限界があるのではないか。
- ・当面の対策だけでなく、中長期の対策も必要であり、特に長期的には暑さに強い品種の開発やそれらを確立する対策が必要。

等の意見が出された。

これらの意見については、10月21日開催の「野菜生産出荷安定連絡会議」（対策本部の下部組織）で報告した。

(3) 秋冬野菜の需給・価格の見通しに関する意見交換

ア 冬キャベツ

(ア) 生産者側の報告

- ・作付面積は、直近の調査で平年をやや上回る。
- ・生育状況は、夏場の干ばつの影響で定植が遅れたが、その後比較的天候が順調に推移し生育は総じて順調。
- ・産地の切り替えについては、特に夏秋キャベツは群馬の高原ものが11月上旬でほぼ終了（ほぼ前年並）。その後、秋冬ものに若干の遅れが見られることから切り替わりの部分で少し品薄になる懸念。
- ・期間トータルを含めた出荷見通しは主産県3県の11月～3月までの合計は、前年比で111、過去3カ年平均比で107、いずれも100を上回る。

(イ) 委員の意見

- ・生育の遅れは、現状では順調に回復。
- ・今月中旬以降、量的には多くなってくる。
- ・今後は潤沢な出荷が見込まれる。
- ・価格については、昨年を下回る可能性がある。

イ たまねぎ

(ア) 生産者側の報告

- ・作付面積は、主産地の北海道は前年同。
- ・生育状況は、7月以降の天候不順、高温多雨で根痛の発生の影響もあり、全体的に小玉傾向また収穫したものの腐敗によるロスが多く、歩留りも低下し収量も大幅に減少。
- ・今後の出荷の見通しは、期間トータルで少なかった前年をさらに1割程度下回る見込み。

(イ) 委員の意見

- ・ホクレンの出荷見通しは前年の90%。前年も良くない中での前年の90はかなり量的には少ない印象。
- ・外国産について、量販店もほとんど抵抗がなくなってきており、恒常的に売れるということはないが、特売でアメリカ産を出せば売れる状況。
- ・ただし、アメリカ産の価格も上がっている。

ウ 秋冬だいこん

(ア) 生産者側の報告

- ・作付面積は、前年比微減。直近の状況は千葉県で99、神奈川県で97、徳島で102。
- ・生育状況は平年よりやや遅れは見られるものの生育は概ね順調。
- ・産地の切り替え状況は、夏だいこんの主力である北海道は、10月いっぱいではほぼ終了で平年よりやや切り上がり早い。一方、秋冬産地は逆にやや遅れ気味で、一時的な品薄も懸念。
- ・今後の出荷見通しの期間トータルは、前年比の110、過去3カ年平均の103。
- ・時期的には特に2月、3月が前年を大きく上回る見込み。

(イ) 委員の意見

- ・東北、北海道の切り上がりはかなり早く今ちょうど合間。千葉県産は、11月の中旬までは品質、量ともに落ち着かないが12月以降は順調に回復するとみられる。
- ・12月の出荷は非常に集中して出る様子。価格的には、前年並か若干安くなる。

エ 冬にんじん

(ア) 生産者側の報告

- ・作付面積は、直近の調査ではトータルでやや前年を下回る。
- ・生育状況は、概ね順調。
- ・産地の切り替えは、主力の北海道の切り上がりは平年よりやや早く、今後11月以降急激に減少。一方、冬にんじんは、各産地1週間程度の遅れが見られるため、11月の上旬はやや品

薄を懸念。

・当面の出荷は、千葉では11月の中旬以降本格出荷、愛知は12月以降、長崎は11月の中旬以降それぞれ本格出荷。

・期間全体の出荷の見通しは、主産県の期間トータルで前年比96程度。

(イ) 委員の意見

・千葉県産は、発芽不良等により生育が若干遅れてすぐには回復しない様子。

・肥大不足も絡んで、M・Sが中心となれば収量減となり価格的には強い。

・埼玉県産は、大きいものが少ない状況、品質的にも下等級ものが多くなる。

・本年は北海道が不作で切り上がりも早く、11月は若干品薄で値段が上がる見込み。若干九州も遅れているので、11月の中旬以降から本格的な出荷。年内はほぼ堅調な価格で推移して、年明けからは若干下がる。12月に冷え込むと年明けも高いまま推移する可能性がある。

オ 秋冬はくさい

(ア) 生産者側の報告

・作付面積は、全体として平年並かやや微減。

・生育状況は、干ばつの影響で定植がやや遅れ気味、その後は天候も回復し概ね順調に推移。

・産地の切り替えは、主産地の長野がほぼ11月上旬で終了（平年より若干早い）。一方秋冬産地は、若干遅れ気味で特に11月上旬は若干品薄の懸念あり。

・出荷の見通しは、11月～12月の主産県の計は、前年比の110、過去3カ年平均の113、いずれも100を上回る。

(イ) 委員の意見

・茨城県産は、現時点では欠株や病気、白斑、軟腐病が若干出ており豊作とはいいがたい。

11月の中・下旬から12月にかけては順調に出荷される見込み。

・国産キムチの需要も今年に入ってだいぶ膨らんできており、昨年よりは高い相場の中で動く。

・価格は現在昨年よりも高い水準で推移している。12月にまた冷え込みがあれば需要も喚起されるので、価格は前年を上回る見込み。

カ 冬レタス

(ア) 生産者側の報告

・作付面積は、全体ではほぼ前年並。

・生育状況は、干ばつの影響で定植が若干遅れたものの、その後は総じて順調に推移。

・産地の切り替わりは、長野が11月上旬でほぼ終了。冬ものについては、全般的に主産地が1週間～5日程度遅れ、11月上旬を中心にやや品薄が懸念。

・出荷の見通しは、主産県の期間トータルで前年比の111、過去3カ年平均比の106と、いずれも100を上回る計画。茨城は前年比111。

(イ) 委員の意見

- ・茨城の県西地区の出荷計画の半分が終わったところ。今年は台風がほとんど上陸しておらず、兵庫、香川、静岡ともに生育はよい。
- ・香川などは、11月、12月にかけては極端な冷え込みがなければ潤沢な出回り。
- ・天候も回復して11月は産地が出そろってくるので、入荷量は平年に戻る。寒波がなければある程度価格も安定的。レタスは寒さに弱いので寒波だけが心配。
- ・主産県は、期間を通して多い。年内については、11月、12月等については、昨年よりは堅調な販売。年明け以降はほぼ前年並の価格。年内については堅調な推移、年明け以降は前年並の価格の推移。

(4) 委員の意見を踏まえた秋冬野菜の需給・価格の見通しの野菜需給協会への報告内容

上記(3)の生産者側の報告及び各委員の意見を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で11月11日開催の第11回野菜需給協会に以下のとおり報告することとなった。

ア 冬キャベツの需給・価格の見通し

- ・作付面積は全体的に前年をやや上回る。
- ・生育状況は干ばつの影響で序盤の定植が遅れたものの、生育は総じて順調。
- ・出荷量は、千葉、神奈川が当面平年を下回るが、12月には回復する見込み。
- ・価格は、前年を下回って推移するが、愛知が本格化する2、3月以降一段の低下の可能性もある。

イ たまねぎの需給・価格の見通し

- ・作付面積は前年並みだが、産地(北海道)の天候異変により平年以上のロスが多く、歩留まりが低下し、出荷量は少なかった前年をさらに下回る見込み。
- ・米国を中心に輸入(生鮮もの)が増える可能性があるが、価格に与える影響は軽微とみられる。
- ・価格は品薄を反映し、高値が継続する見込み。

ウ 秋冬だいこんの需給・価格の見通し

- ・作付面積は神奈川、千葉で微減。
- ・生育は概ね順調になりつつあり、12月以降は前年並み。期間トータルでの出荷量は、前年をやや上回り、特に2、3月は千葉を中心に前年を大きく上回る見込み。
- ・価格は昨年並みのキロ60~80円程度で安く推移し、千葉から前年を上回る出荷量が見込まれる2、3月にはさらに前年を下回る水準となる可能性もある。

エ 冬にんじんの需給・価格の見通し

- ・作付面積は前年を下まわる。
- ・生育については、猛暑の影響を受け、千葉では7日～10日、愛知では1週間以上遅れている玉太りが悪く、12月初旬は、M・S中心、下旬にはL・2L級も出てくる見込み。
- ・ただし、年明け以降も出荷量は平年より1、2割少ない見込み。
- ・価格は、12月中旬までは前年を1割程度上回って推移し、上位等級が出回る12月下旬には更なる上げもありうる。年明けに、生育が遅れた分が集中し、若干の下げの可能性はあるものの、徳島産が出荷される3月までは高値で推移する見込み。

オ 秋冬はくさいの需給・価格の見通し

- ・作付面積は愛知が1割減少しており主要3県では微減。
- ・生育状況は干ばつの影響で序盤の定植遅れがあったものの現在概ね順調。
- ・価格は、国産キムチ需要など加工需要が強く堅調に推移。12月には、寒波による鍋需要の増加も見込まれることから一段上げの可能性もありうる。

カ 冬レタスの需給・価格の見通し

- ・作付面積は主要4県でほぼ前年並み。
- ・生育状況は序盤の定植が遅れたものの、現状は総じて順調。
- ・価格は、平年並みで推移するとみられるが、レタスは低温の影響を受けやすいため12月に寒波が来れば供給も減って価格が上昇することもありうる。